



有田病院 看護部通信

高橋 健 様

この度は勤続10年おめでとうございます。

あなたの献身的な努力により、多くの患者さんが救われました。

日々の勤務で辛い瞬間や困難にも負けず、立ち向かってくれたことに感謝しています。これからもさらなる医療の発展に貢献してください。

10年を振り返り 以下のアンケートに答えてもらいました。

Q1 この10年間で最も充実感を得られたエピソード、または心に残っているエピソードは何ですか？

A. 3病棟に配属されて以来、今日に至るまでずっとやる気みなぎり、モチベを維持していること！

Q2 10年間働き続けることが出来たのは、何が大きかったですか？

A. 師長、他一同の歓迎・期待・協調が実感できること

Q3 10年間のキャリアで同僚や上司から受けたサポートや助言の中で、特に印象に残っているものは何ですか？

A. 3病棟異動初出勤日、各位から「待ってたよ」という声を頂いたこと。

Q4 これからの目標や希望を教えてください。

A. 精神障害者への思いやりが続く限り、動機が保持される限り、尽くしたい。

Q5 これからの有田病院を担う後輩たちに一言お願いします

A. まずはその歴史、風土、文化を知ろう。役割意識を高めよう！



初めまして。摂食、嚥下障害看護認定の石田です。
認定看護師としては駆け出しですので皆様と学んでいけたらと思っています。
さて、今回のテーマは“嚥下”についてのお話です。



人は、コミュニケーションを獲得するために進化の過程で誤嚥のリスクを負うことになりました。口や鼻は呼吸器の最末端に位置し、構造上、食物の通り道(嚥下)と空気の通り道(呼吸)が重なっています。人間以外の哺乳類は人と比較して、よりシンプルな構造となっています。例えるなら、人間以外の哺乳類の口腔から食堂までの構造は立体交差点、人間は信号機のある交差点といったイメージです。そのため人は、食物と空気を交通事故なく通すために嚥下の複雑な反射や運動が必要となりました。この過程(嚥下の5期モデル)には47もの筋肉が順序よく関与し、0.5から0.8秒のわずかな時間が一般に“ごっくん”=嚥下です。この複雑な運動を制御しているのが延髄にあるパターン発生器(CPG)であり、“ごっくん”は自動運動と言われています。

★知ってなっ得★

- ①パターンがプログラムされた(自動)運動なので、“ごっくん”の途中で止めることはできない
- ②嘔吐と嚥下、または呼吸と嚥下は同時にはできない(乳児嚥下を除き)
...それぞれの中樞は、お互いに協調はするが殆ど関与していない。
- ③食物は食道に吸い込まれているのではなく、押し込まれている。
...馬は地面の草を食んで飲み込むため(低い所からたかいところへ)逆立ちと同じ位置関係となっている。なので、人理的に逆立ちしてコーラを飲むことになります。

今回は、“うまい”をテーマにお話できたらと思います。



(医)有田病院 看護部
URL:<https://www.yushinkai.info/nurse/>